

# 吉村 伸

よしむら・しん：1959年4月生まれ。86年東京大学大学院修士課程修了。東京大学助手を経て93年より(株)インターネットイニシアティブに勤務。97年6月メディアエクスチェンジ(株)を設立、代表取締役社長に就任。著書「インターネット参加の手引き」「インターネットオペレーション」(村井純氏と共同監修)など。

Technology

Business

Society

Design

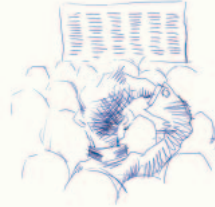
新しいなにかを創り出すということに決まった道具もないし、決まった手法もない。学校で学ぶ、数学や物理や化学などの自然科学、経済学や法律などの社会科学、文化に対する理解を深めるための人文科学と、どれがどこでどのように役立つかなんてわからない。

ところが、勉強がそれ自身「いい学校、いい会社に入るために点数を稼ぐ」という手段になってしまった。受験戦争は有限数の科目においてよい点数をたたき出すことが必要とされ、そのために教養として身につけるべきものであったり、道具として習得すべきものであったりするものが、本来の機能を失ってしまったといってもいいだろう。

あえて若い人のために言おう。私は東京大学理学部を卒業し、大学院に進んだ。大学時代は生物化学や有機化学を専攻し、その後、有機化学の研究室で助手を約8年勤めた。助手時代に研究者のネットワークとしてのインターネットに出会ったし、コンピュータによる解析が研究の主たる手段であった。その後、インターネットをより広く社会に広めるためにインターネットサービスプロバイダーの会社設立に携わり、いまもまた別のインターネット関係の会社を興し、経営も行っている。

よく取材などで、「化学からコンピュータネットワークに転身して大変ではありませんか」という質問を受ける。別にコンピュータサイエンスを専門に研究したわけではないが、数学にしる、物理学にしる、はたまたそこそこの社会科学にしる、しかるべき基礎的なレベルを身に付けて、その中でたまたまその時好きだったものをより深く研究テーマに選んだだけで、他の学問の基礎がないわけではないし、ましてや無知ではない。取材でこうした質問を投げかける人はなにか大きな勘違いをしている。

さて、読者にとってぐっと身近な例でいえば、ソフトウェアは非常に重要な道具である。ソフトウェアにしても、それを正しく使うというのはなにもマニュアルどおりに使うことではない。目的とすることがあって、それに対して必要なデータを必要な形で入力し、目的を達成することが正しい使い方である。もちろんマニュアルに従って使うことは必要だ。しかし、それはのこぎりでどうやったら材木が切れるのかといった程度のものである。目的を理解しないで、自分勝手な解釈でソフトウェアを使うと大き



な誤りを起こすことがある。インターネットはもちろんのだが、今のコンピュータソフトウェアはコラボレーションのツールとしての基盤を提供することが多い。特に、ビジネスソフトウェアはその機能が主である。そうすると、ワープロソフトにしても、ただの清書装置だと思っている独善的な使い方はコラボレーションに大きな障害を引き起こすことがある。コラボレーションでは他人の時間をつまらない作業で奪うのは悪なのだ。

成績を上げることだけが目的となってしまった勉強は、道具の意義を理解することや、知識と教養の意義さえも失わせてしまったのかと思わせることに最近よく出くわす。「創る」ということはなにもないところからなにかを生み出すことを意味するように取られがちだ。しかし、実際には基礎となるべき知識と創るための道具が必要である。必死になって吸収する意欲があつてこそ、新たなものが生み出されるのだと思う。詰め込み型の教育は間違いなくその知識の意義を伝えてはいない。この不況下に、それが証明されつつあると感じている人は多いのではないだろうか。

最後に余談だが、少子高齢化の時代を迎えて、学校が入学試験で入学者を選別する時代は終わるだろう。もはや学校自体が変革し、教養と知識の意義を正しく伝える場になるべきであり、そのポリシーを公開し、学校が選ばれる時代になるべきだ。これに関しては初等中等教育のほうがより深刻だろう。われわれは次の世代を創り出すことにも心を砕かなければならない。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)